こんな言葉が出ていたら

社内で、こんな言葉が出ていませんか。

困りごとに名前はついていなくて構いません。この一言が出た時点で、ご相談の入口です。

状況	現場で実際に出る言葉	Iwakura が引き受けること
ベテランが辞める、辞めそう	「あの人が辞めたら、 あの仕事は誰も分からない」	判断の基準と例外処理を聞き取り、 A4 一枚の記録に残す。
人が採れなくなった	「求人を出しても、 半年来ない」	増員が要る作業だけを切り出し、その分を仕組みが引き受ける。
事業承継が近い	「息子に継がせたいが、 俺の頭の中にしかない」	頭の中にある判断を書き出し、継ぐ人が使える形にする。
取引先から電子化を求められた	「取引先から、 PDF じゃなく データで送れと言われた」	今の紙と Excel を崩さずに、求められた形式で出せる一手を作る。

ほかにも　「請求書を出す日だけ、事務が残業になる」　「在庫が合わない。原因を探すのに半日かかる」　「パソコンに詳しい人が営業兼務で、頼みづらい」

四つに共通するのは、人に貼りついた仕事を抱え、何を頼めばいいか言葉にできていない段階で、外からの圧力で動かざるを得なくなっていることです。

こんな現場を想定しています

「あ、うちだ」と思ったら、それが入口です。

困りごとの言い方は違っても、中身は「人の手でつながっている仕事」です。

ひとり総務・ひとり経理の中小企業

従業員 5 〜 50 人前後／関東一円の製造・卸・サービス業

**「毎月、同じ数字を
三か所に打ち直しています」**

現場で起きていること

見積・請求・給与・在庫がそれぞれ別の紙と Excel にあり、人の転記でつながっている。情報システム部門はなく、パソコンに詳しい人が兼務で見ている。担当者が休むと止まる。

渡すもの

まず、どの作業を止めるかを一緒に決める。そのうえで一業務だけ自動化する。全社を作り替えることはしない。

引き継げない業務を抱えた現場

製造・建設・運送など／ベテランの退職が視野に入っている会社

**「あの人にしか分からない、
で止まっています」**

現場で起きていること

判断の基準と例外の処理が本人の頭の中にあり、どこにも書き出されていない。マニュアルは手順だけで、なぜそうするかが載っていない。人を採用しても教えられない。

渡すもの

六問の聞き取りで、例外処理と判断の基準を A4 一枚の記録にする。自社で作ったツールを使い、 1 回 10 分ほど、一業務ずつ進める。

次の事業の柱に置いている領域

税理士・社労士事務所のバックオフィス

所長＋職員数名／顧問先ごとに様式の違う資料が集まる事務所

**「繁忙期は全員が
資料の突合に張り付きます」**

現場で起きていること

顧問先から届く資料の形式がばらばらで、人が目で見て確認しながら入力している。専門知識が要る判断と、要らない転記が、同じ人の手の中で混ざっている。所内に開発を頼める相手がいない。

渡すもの

受け取りから入力までの流れを組み替え、判断が必要な確認だけを人に残す。

三つとも、共通の入口は同じです。「要件」ではなく、「毎月あの作業が重い」という一言から始まります。

なぜ、この困りごとが残っているのか

助ける側がいないのではなく、手段がこの規模に合っていない。

1 開発会社に外注すると、桁が合わない

前職でシステム開発の見積を扱ってきた経験では、一業務の自動化でも最低 100 万円から。この規模には大きすぎる。

2 セミナー・補助金説明会は、順番を決めてくれない

「AI の使い方」は教えるが、自社のどの業務から手をつけるかは決めてくれない。

3 大手のコンサルタントは、現場に来られない

単価と移動費が合わず、現場に何度も来られない。

4 一般論の相談会は、翌日から何をするかが残らない

その場の助言で終わり、翌日から何をするかが手元に残らない。

5 システムを入れても、 Excel に戻る

「システムを入れたが、結局 Excel に戻った」。業務に合わせて作られていない。

6 補助金で入れても、使えるのは一人

「補助金でシステムを入れたが、使えるのは一人だけ」。その人が休むと止まる。

結果として、いちばん困っている人が、いちばん相談先を持っていない。　ここが空いています。

その手間、**仕組み**が引き受ける。

合同会社 Iwakura
iwakurastudio.co.jp　info@iwakurastudio.co.jp

※ 金額は、代表が前職でシステム開発の見積を扱ってきた経験にもとづく概数です。